



# Sibelius<sup>®</sup> 7

新機能

7.0版  
2011年7月

Daniel SpreadburyによるSibelius 7の新機能

ソフトウェア開発チームのリストおよび謝辞は、[バージョン情報] ダイアログをご覧ください。

Sibeliusとその説明書に対して有用なご意見とご提案をいただいたみなさまにお礼を申し上げます。

## ご利用にあたって

この製品はソフトウェア使用許諾契約の条件に従います。

本書は著作権で保護されています。©2011 by Avid Technology, Inc. 本書の全てまたは一部を許可なく複製することは法律で禁じられています。

Avid、Sibelius、Scorchは、USA、UK、その他の国においてAvid Technology, Inc.の登録商標です。その他すべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

製品の機能、仕様、システム要件、可用性は予告なく変更されることがあります。

## 取扱説明書に対するご意見・ご感想

弊社は常に説明書の品質の向上に努めています。弊社の説明書に関するご意見またはご感想は、[docs@sibelius.com](mailto:docs@sibelius.com)までEメールにてお送りください。

# 目次

イントロダクション .....	4
ルック&フィール .....	5
再生.....	10
MusicXMLのエクスポート .....	12
音符の入力 .....	13
テキストとタイポグラフィ .....	15
グラフィックのインポートとエクスポート .....	19
その他の変更と改良 .....	21
キーボードショートカット .....	24

# イントロダクション

---

世界のベストセラー楽譜作成ソフトウェアの最新バージョンSibelius 7をご購入いただきましてありがとうございます。Sibelius 7は、一流の作曲家、編曲家、出版社の要望に十分に答える機能を持ちながら、初心者や学生にも使いやすいソフトウェアです。

新しいタスク指向のユーザーインターフェースが仕事を早めてくれます。独自のプロフェッショナルクオリティのサウンドライブラリーが素晴らしい音を聴かせてくれます。MusicXMLへの完全対応とその他の共有オプションにより、コラボレーションがより簡単になりました。その他多くの機能向上によって、Sibelius 7は最も速く、スマートで、簡単な楽譜作成ソフトウェアとなっています。

以下のページでは、このバージョンの変更点と改良点を説明し、『Sibelius 7リファレンスガイド』の参照箇所を示します。

どうぞSibelius 7をお楽しみください！

# ルック&フィール

Sibeliusは、バージョン7において、ユーザーインターフェースを大きく進化させました。この新しいインターフェースは、シングルディスプレイシステム（ノートブック、ラップトップコンピューター、iMacの様な固定ディスプレイシステム）に対してより効率的になっており、最新のシングルドキュメントインターフェース（SDI）を活用し、タブ式ドキュメント表示を導入しました。

さらに、Sibeliusの以前のメニューとツールバーはリボンと呼ばれるタブ式ツールバーに置き換えられました。プログラムの機能がインターフェースにわかりやすく分類され、新規ユーザーにとっても既存ユーザーにとっても使いやすくなっています。（Macでは、最上階層のメニューの基本セットは今もあります。）



## シングルドキュメントインターフェース

Sibeliusの以前のバージョンは、WindowsとMacのアプリケーションでは一般的なマルチドキュメントインターフェース（MDI）を採用していました。一般的にMDIでは、各ドキュメントはクライアントエリア（Windows上でSibelius 6以前を初めて起動したときに見えるグレーのバックグラウンドなど）に表示され、開いているすべてのドキュメントに対して同じツールが適用されます。また一般的にMDIアプリケーションは、開いているドキュメントの数にかかわらず、Windowsのタスクバー上に単一のエントリを表示します。ユーザーにとっては、これによって開いているドキュメントの切り替え方法が分かりにくくなる場合があります。

シングルドキュメントインターフェース（SDI）を採用したアプリケーションは、これとは逆に、ドキュメントごとに別のウィンドウを使用します。各ドキュメントはWindowsのタスクバー上に独自のエントリを表示しますので、ユーザーにとっては開いているドキュメントの切り替えが簡単になります。さらに、各ドキュメントのウィンドウは自己完結型で、必要なツールバーが各ウィンドウ内に直接組み込まれています。

## タブ式ドキュメントインターフェース

MDIに加えて、Sibeliusは最新のウェブブラウザでお馴染みのタブ式ドキュメントインターフェース (TDI) を採用しています。各SDIウィンドウには1つまたは複数のタブが表示され、各タブにはフルスコアの表示、ダイナミックパート、フルスコアの保存バージョン (またはフルスコアの保存バージョンのダイナミックパート) が含まれています。

新しいタブを開くには、タブバーの右側の **+** ボタンをクリックします。現在のスコアのすべてのダイナミックパートと保存バージョンがメニューに表示されます。バージョンの1つを開くと、そのバージョンに対するサブメニューが開き、そのバージョンに属するダイナミックパートが表示されます。ダイナミックパート、保存バージョン、またはバージョンに属するダイナミックパートを選択すると、それが新しいタブに表示されます。

フルスコア表示の何かを選択し、**W**を押して新しいタブを開くこともできます。これによって選択したオブジェクトを含む最初のダイナミックパートのタブ、またはそのパートを表示するための新しいタブが開きます。

**[+]** メニューから **[新しいウィンドウ]** を選択して、現在の内容を含む新しいウィンドウを開くこともできます。ドキュメントタブバーの任意の場所を右クリックすると同じメニューが表示されます。

**[+]** ボタンの右のボタンをクリックすると表示されるメニューから目的のタブを選択すると、開いている任意のタブへ素早く切り替えられます。次のタブへ移動するには **Ctrl + Tab** (Windows) または **Control-Tab** (Mac) をタイプし、前のタブへ移動するには **Ctrl + Shift + Tab** (Windows) または **Shift-Control-Tab** (Mac) をタイプします。

タブを閉じるには、**Ctrl + W** または **⌘W**、またはタブを中央クリックします (マウスに中央マウスボタンがある場合)。すべてのタブとドキュメントウィンドウを閉じるには、**Ctrl + Shift + W** または **⇧⌘W** をタイプします。すべてのドキュメントウィンドウを閉じるには、**Ctrl + Alt + W** または **⌥⌘W** をタイプします。

新規セッションでスコアを再び開いたときは、以前に開いていたすべてのタブとウィンドウ、および各ウィンドウの大きさと位置が元の状態になります。

## リボン

リボンはSibeliusのウィンドウの一番上に表示されるコマンドボタンの帯で、プログラムのすべての機能がタスク別に分けられています。WindowsまたはMac用Microsoft Officeの最新バージョンを使ったことがあれば、リボンインターフェースにはお馴染みでしょう。

リボンには、これまでのメニューやツールバーに比べて多くの利点があります。リボンにはより多くのコントロールが配置でき、ダイアログボックスを開くことなく多くの操作がリボン上で直接実行できます。すべてのコントロールが独自のアイコン、テキスト表示、ツールのヒント (スクリーンチップ) を持っており、すべての機能が独自のキーボードアクセス機構 (キーチップ) を持っています。

目的の機能は、右上の **[リボン内検索]** を使うと簡単に見つけられます。ボックスにタイプするだけで候補が順に表示されます。↑/↓ キーを使って目的の機能を選択し、**Return** を押すとその機能が表示されます。または **Shift-Return** をタイプするとその機能が直ちに実行されます。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **リボンの操作** を参照してください。

## ステータスバー

Sibelius の各ウィンドウの一番下には新しいステータスバーがあり、左側には各種情報が、右側にはズームレベルとページ表示を変更するための便利なコントロールが表示されます。

各種情報は以下の通り左から右へ表示されます。現在のページとページの合計数、小節の合計数、現在の選択範囲（何かが選択されている場合）、現在の選択範囲のタイムコード、選択した音符の音高（一定の範囲を選択している場合はパッセージの最初の音符または和音）、選択範囲の一番初めに選択されているすべての音符によって構成された和音（必要に応じて複数の譜表にわたり、コード記号として表示される）、現在の操作の説明（**[パッセージの編集]** や **[テキストの編集]** など）、現在の表示がコンサートピッチ（実音）か移調ピッチ（記譜音）か、**[レイアウト]** ▶ **[譜表の非表示]** ▶ **[譜表にフォーカス]** がオンになっているか、選択したオブジェクトに対してマグネティックレイアウトが適用されているか、そして選択したテキストオブジェクトのフォントとポイントサイズです。

ステータスバーの右側には左右の端にボタンがついたスライダーがあり、現在の表示のズームレベルを素早く簡単に変更できます。スライダーの左側には現在のズームレベルがパーセンテージで表示されます。

ズームコントロールの左側のボタンを使うと、スコアの表示を見開きからパノラマへ変更するなど、表示の種類が簡単に切り替えられます。これらのボタンはリボンの **[表示]** タブにもあります。

## パネル

Sibelius の以前のバージョンでお馴染みのフローティングウィンドウのいくつかは、ドック可能なパネルになりました。標準設定では、**[ミキサー]**、**[フレットボード]**、**[キーボード]** ウィンドウは画面の一番下にドックされ（リボンの下にドックすることもできます）、**[アイデア]** ウィンドウは画面の左側にドックされます（右側にドックすることもできます）。ドック可能なパネルはドラッグして切り離すこともできます。

**[ナビゲーター]**、**[テンキー]**、**[ビデオ]** ウィンドウはドックできません。**[再生]** ウィンドウは、ドックはできませんが、他のアプリケーションに合わせてその名前を **[トランスポート]** とし、再生オプションはリボン上の **[再生]** タブで選択できるようにしました。

**[パート]** ウィンドウはなくなり、リボン上の新しい **[パート]** タブによって置き換えられました（『リファレンスガイド』の  **9.1 パート譜での作業**）。同様に、**[プロパティ]** ウィンドウはインスペクターによって置き換えられました（『リファレンスガイド』の  **2.11 インスペクター**）。

パネルの表示と非表示はリボン上の **[表示]** ▶ **[パネル]** のコントロールを使って切り替えます（『リファレンスガイド』の  **11.4 パネル**）。

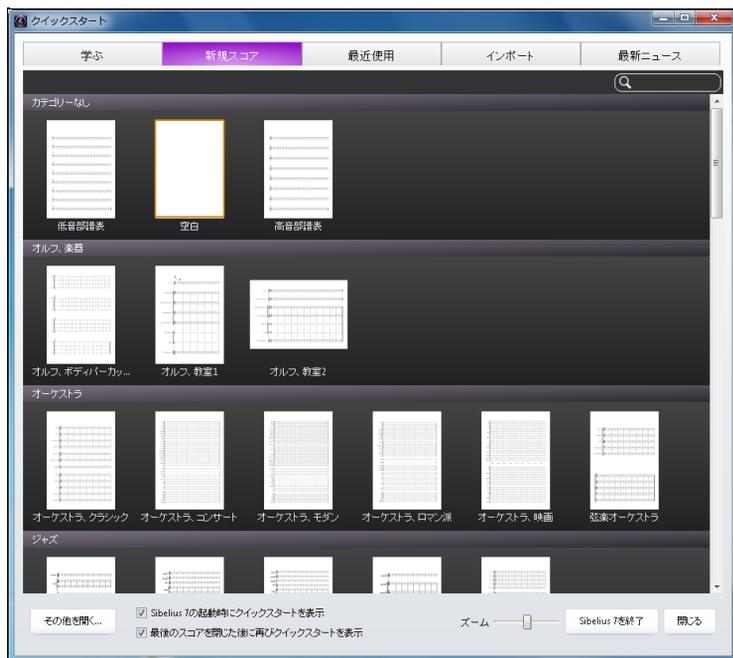
## ウィンドウの大きさ、位置、表示オプションを記憶

Sibelius は、開かれていたウィンドウの数、各ウィンドウの位置、どのパネルが表示されていたかなどスコアに関するすべて記憶し、スコアが再び開かれたときに元の状態を再現します。

この動作に対する細かいオプションは **[ファイル]** ▶ **[環境設定]** の **[表示]** ページと **[ファイル]** ページにあります。これらのオプションについては、『リファレンスガイド』の  **1.25 表示設定** をご参照ください。

## クイックスタート

Sibeliusを起動すると、新しい[クイックスタート]ウィンドウが表示されます。



このウィンドウには以下の5つのタブがあります。

- **学ぶ**：チュートリアルビデオの閲覧、画面上の文書へのアクセス、オンラインサポートの検索ができます。
- **[新規スコア]**：新しいスコアを作成します。譜面用紙はカテゴリ別に分けられ、それぞれがズーム可能なサムネールとして表示されます。**Ctrl + F**または**⌘F**をタイプして**[検索]**ボックスを選択し、目的の譜面用紙の名前の一部をタイプすると60以上の譜面用紙から選択肢が絞り込まれます。譜面用紙をダブルクリックするとその譜面が直ちに作成され、シングルクリックするとオプションが選択できます。
- **最近使用**：最近作成したスコアを開きます。Sibeliusは、最後に開いた順（今日、今週、今月など）に従ってスコアを並べ替えます。ここでも、各スコアはズームインまたはズームアウトできるサムネールを表示します。選択したスコアのカタログ情報は、スコアを開くための**[開く]**ボタンと共に、サムネールの右下のバーに表示されます。またプレビューをダブルクリックすると、そのスコアが直ちに開きます。
- **インポート**：PhotoScoreまたはAudioScoreを起動するか、他の楽譜作成プログラムからMIDIファイルまたはMusicXMLファイルを開きます。
- **最新ニュース**：Sibelius ブログ ([www.sibeliusblog.com](http://www.sibeliusblog.com)) で Sibelius の最新ニュースがチェックできます。

Sibeliusを起動したときに[クイックスタート]ウィンドウを表示したくない場合は、ウィンドウの一番下の該当オプションをオフにしてください。[クイックスタート]をオフにすると、Sibeliusは標準設定の空のドキュメントと共に起動します。別のスコアを開くには、**[ファイル] ▶ [開く]** または **[ファイル] ▶ [最近使用]** を選択します。（[クイックスタート]は、**[ファイル] ▶ [環境設定]** の**[その他]** ページでいつでもオンにできます。）

最後のドキュメントのウィンドウを閉じると、[クイックスタート]ウィンドウが表示されます。[クイックスタート]ウィンドウを表示したくない場合は、ウィンドウの一番下の該当オプションをオフにしてください。これにより、Windowsでは、最後のドキュメントのウィンドウを閉じるとSibeliusは自動的に終了します。Macでは、SibeliusはDockの中で起動し続け、メニューバーから**[ファイル] ▶ [クイックスタート]**を選択すると再び[クイックスタート]が開きます。

## 全画面

Mac用 Sibelius に初めて全画面モードが追加されました。[表示] ▶ [ウィンドウ] ▶ [全画面] (ショートカット **⌘U**) を選択して試してみてください。

## ダイアログ

- [楽器を追加/削除] ダイアログ (ショートカット I、現在は [ホーム] ▶ [楽器] ▶ [追加/削除]) には便利な「検索」ボックスができ、楽器の名前をタイプするに従って候補が表示されます。また、このダイアログの階層コントロールを使うと楽器の長いリストを簡単に移動できます。
- ダイアログは、すべてのコントロールに対して Windows のシステムフォントである Segoe UI を常に使用します。
- ダイアログを閉じるボタン ([OK] や [キャンセル] など) は、Windows では左に [OK]、右に [キャンセル]、Mac OS X では右に [OK]、左に [キャンセル] の順に表示されるようになりました (これまでは両方とも Mac OS X の順でした)。
- [OK] / [キャンセル] ボタンではなく [閉じる] ボタンを持つダイアログを含め、**Esc** を押してすべてのダイアログを閉じることができます。[閉じる] ボタンを持つダイアログでは、**Esc** はそのダイアログで実行された操作を取り消しません。単にダイアログが閉じるだけです。[クイックスタート] ウィンドウは例外です。**Esc** を押して閉じることはできません。[クイックスタート] ウィンドウが表示されているときに **Esc** を押すと Sibelius は終了します。
- Sibelius のすべてのダイアログにおいて、編集コントロールのマスキングが大幅に改善されました。数値入力のみ受け付けるべき編集コントロールでは、整数または小数点のみ入力できます。
- リストから複数のアイテムを選択するダイアログや、プレビューを含むダイアログ ([ドキュメントセットアップ]) など、Sibelius の多くのダイアログの大きさが変更可能となりました。Sibelius は変更された各ダイアログの大きさを記憶します。
- Mac OS X のアプリケーションメニューに表示されるアプリケーション名は、Apple のガイドラインに従って、バージョン番号を含まずに単に **Sibelius** となりました。

# 再生

Sibelius 7には、完全なネイティブ64ビットアプリケーションとなったSibelius 7を活用できる、Sibelius 7 Sounds と呼ばれるプロフェッショナルクオリティーのサンプルライブラリーが付属しています。またSibelius 7では [ミキサー] ウィンドウが再設計され、再生の操作と調整がより簡単になりました。

## 完全なネイティブ64ビットアプリケーション

Sibelius 7は世界初の完全なネイティブ64ビット楽譜作成ソフトウェアであり、最新の64ビットプロセッサとオペレーティングシステムのパワーを最大限に利用できます。64ビットコンピューティングの主な利点は、アプリケーションが4GB以上のRAM（これは32ビットアプリケーションの理論的上限ですが、実際にはオペレーティングシステムの要件に従って制限される）に直接アクセスできること、そしてCPU上のレジスターの大きさと幅を増やせることによって、本来の処理能力が発揮できる点です。

Sibelius のようなアプリケーションでは、ネイティブ64ビットアプリケーションであることの主な利点は、64ビットオペレーションに対応した大きなサンプルライブラリーのより多くのサウンドをメモリーに直接ロードできることです（コンピューターに十分なRAMがある場合）。

これは、Sibelius が最新のコンピューティングテクノロジーに完全に対応していることを意味し、32ビットのCPUとオペレーティングシステムが過去のものとなった後も、最新のコンピューターのすべてのパワーが利用できることを保証します。

## Sibelius 7 Sounds

Sibelius の新しい64ビットの性能をお見せするため、Sibelius 7にはSibelius 7 Sounds と呼ばれる、まったく新しいプロフェッショナルクオリティーのサンプルライブラリーが付属しています。このライブラリーには、Avid Orchestra と呼ばれる特別に録音された交響楽団、Pro Tools Creative Collection と Pro Tools Instrument Expansion Pack を生み出したチームによるロックとポップのサウンド、Sample Logic の Rumble と Fanfare のマーチングブラスとパーカッションサウンド、Hauptwerk のオルガンバーチャルインストゥルメントの27ストップパイプオルガンが含まれています。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **6.13 Sibelius 7 Sounds** をご参照ください。

## ミキサー

Sibelius 7では [ミキサー] ウィンドウを完全に設計し直し、垂直方向のフェーダー（本物のミキシングデスクやオーディオソフトウェアのミキサーと同じ）を使用するようになりました。



標準設定では [ミキサー] は画面の一番下にドックされ、4種類の高さがあり、CPUメーターのすぐ下のボタンをクリックして選択できます。

[ミキサー]を一番小さくすると、各譜表に対するボリュームフェーダーだけが表示されます。次の高さでは、ミュートとパンのコントロールが表示されます。さらに高くすると、再生デバイスと初期サウンドを選択するコントロールが表示されます。最も高くすると、譜表ストリップ上（および特別な Sibelius Player バーチャルインストゥルメントストリップ上）にリバーブとコーラスのコントロールが表示されます。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **6.3 ミキサー**をご参照ください。

### マルチ CPU 対応

Sibelius のオーディオエンジンは、マルチ CPU コアにわたる負荷バランシングに対応しました。ご使用の再生設定で複数のバーチャルインストゥルメントとエフェクトを使用している場合は、使用可能な複数の CPU コアにわたって負荷バランシングが自動的に行われます。これをオフにしたい場合は、[ファイル] ▶ [環境設定] の [再生] ページの [バーチャルインストゥルメントとエフェクトを CPU コア間でバランス調整] をオフにします。標準設定では、Sibelius は使用可能な CPU コアのすべてを使用します。使用するコアの数を制限したい場合は、[使用する CP コア数を指定] をオンにし、コアの数を手動で設定できます。

### 標準の再生設定

Sibelius が作成する標準設定の再生設定は、別の名前と呼ばれるようになりました。

- Sibelius 5 (再生に Kontakt Player 2 を使用する) と共に出荷された Sibelius Sounds Essentials がインストールされている場合は、標準設定は **Sibelius 5 Essentials (16 サウンド)** と **Sibelius 5 Essentials (32 サウンド)** と呼ばれます。
- Sibelius 6 (再生に Sibelius Player を使用する) と共に出荷された Sibelius Sounds Essentials がインストールされている場合は、標準設定は **Sibelius 6 Essentials** と呼ばれます。
- Sibelius 7 Sounds ライブラリーがインストールされている場合は、新しい **Sibelius 7 Sounds** 設定が作成されます。

### その他の改良機能

- DirectSound インターフェイスを使用して再生したとき、リズムが不均一にならなくなりました (Windows のみ)。
- アーティキュレーションを持つ音符を削除することによって作成される休符が次の音符の再生に誤った作用を及ぼすことがなくなりました。

## MusicXMLのエクスポート

---

Sibeliusには、バージョン4から MusicXML インポート機能が内蔵されていましたが、Sibelius のスコアを MusicXML フォーマットにエクスポートするためにはプラグインを別途購入する必要がありました。Sibelius 7には MusicXML エクスポート機能が内蔵されており、プラグインを別途購入する必要はありません。エクスポート機能は内蔵のため、より多くのデータをより速くエクスポートできます。

MusicXML ファイルを開くには、**[ファイル] ▶ [エクスポート] ▶ [MusicXML]** を選択します。圧縮 MusicXML (Eメールで送ったり、グラフィックが含められる小さいファイル) または非圧縮 MusicXML を選択してエクスポートできます。MusicXML ファイルを開く予定のプログラムが圧縮フォーマットに対応していない限り、圧縮 MusicXML の使用を推奨します。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **1.14 MusicXML ファイルのエクスポート** をご参照ください。

# 音符の入力

Sibelius 7には、貼り付くラインと連音符、音価の前に音符の音高が指定できるステップ入力など、音符入力に対する多くの改良が加えられています。

これらの機能について詳しくは、『リファレンスガイド』の  **3.4 アルファベット入力とステップ入力**をご参照ください。

## 音価の前に音高を指定する

音符を入力するには、音高と音価の両方を指定する必要があります。Sibeliusの標準設定では、音価の前に音高を指定します。すなわちテンキーでリズムの値を選択し、マウスでスコアをクリックするか、コンピューターのキーボードの文字名をタイプするか、またはMIDIキーボードで音符や和音を弾きます。

しかし、音高の前に音価を指定することもできます。MIDIキーボードを使うときは、入力したい音符や和音を押さえ、テンキーでリズムの値を選択します。コンピューターのキーボードを使うときは、↑/↓または文字名のキーを使って音高を選択し、キーボード上でリズムの値を選択します。(音高の前に音価を指定するときはマウスを使って音符を入力することはできません。) Finaleを使用していた方にはお馴染みでしょう。

どちらがお好みに合うか両方の方法を試してください。これらは【ファイル】▶【環境設定】の【音符の入力】ページのオプションを使って簡単に切り替えられます。ページの一番上の【音符の入力】プリセットメニューには、【音高の前に音価】(Sibeliusの標準設定)と【音価の前に音高】のオプションがあります。

## 入力中にラインを追加する

アルファベット入力またはステップ入力のときにラインを追加すると、音符を入力するに従ってラインが自動的に延長されます。

たとえば音符を入力した後に**S**を押すと、右端が次の音符または休符にスナップするスラーが追加されます。音符の入力を続けると、休符を入力するか**Shift-S**をタイプしてスラーを停止するまで、スラーの右端が次の音符へ自動的に延長されます。スラーを入れ子にすることもできます。**S**を押して1つのスラーを開始し、もう1つの音符を入力して**S**を押すと別のスラーが開始できます。**Shift-S**を押すと逆の順序でスラーが停止し、最初のスラーが最後に停止します。

これは、他の種類のラインでも機能します。**L**を押して【記譜】▶【ライン】▶【ライン】ギャラリーを開き、ラインを選択し、次の音符を入力してください。スラーと同じ様に、ラインの右端が次の音符へ自動的に延長されます。ラインを停止するには、**Shift-L**をタイプします。

## 多数の連音符を追加する

Sibeliusには「貼り付く」連音符があり、一連の同一の連音符を入力するときに便利です。この連音符を使って音符を入力すると、連音符の括弧の後に、新しい、同一の連音符が作成されます。

貼り付く連音符をオンにするには、連音符を作成し、**Shift + Alt + K**または  **K**をタイプします。連音符の数字が音符入力カーソルの上に表示され、貼り付く連音符がオンになっていることを示します。連音符の入力を停止するときは、もう一度**Shift + Alt + K**または  **K**をタイプします。

### その他の音符の入力の改良点

- マウス音符入力を完全にオフにできる、[環境設定] の [マウス] ページの新しい [マウス音符入力] オプション。他の音符入力方法だけを使用し、マウスを使って音符を入力することがない場合はこのオプションを選択してください。
- ショートカット **Shift-Page Up** と **Shift-Page Down** を使って音符、和音、またはパッセージを上下に半音階移動する新しいオプション。Mac でのみ、**^↑** と **^↓** も使えます。
- シャドー音符がテンキー上で選択された音符の音価を示します。
- [環境設定] の [音符の入力] ページの新しい [減衰しない楽器の標準設定音量を送信] オプション。標準設定ではオン。このオプションをオフにすると（ [再生] ページの [再生後にリセットコントローラーを送信] と共に）、MIDI スルー経由でサウンドを聴き、モジュレーションホイールを使って減衰しない楽器のボリュームを調整できます。
- 音符を選択せずにヘアピンが作成できるようになり、ヘアピンは他のラインスタイルと同じ様に動作します。

# テキストとタイポグラフィ

Sibelius 7では、高度なタイポグラフィ機能の導入、テキストスタイルの改良、フォントの扱いの改善など、テキストのハンドリングを全面的に見直しました。

## スタイル、フォント、サイズを変更する

Sibelius の以前のバージョンでは、テキストオブジェクトのスタイル、フォント、サイズの変更は [プロパティ] ウィンドウで行いました。Sibelius 7では、これらのコントロールはリボン上の [テキスト] ▶ [フォーマット] グループにあります。



▼メニューではテキストオブジェクトのテキストスタイルが変更でき、aメニューではテキストオブジェクトの一部または全部へ文字スタイルを適用できます。[フォント]メニューにはフォントファミリーが表示され、[スタイル]には選択したファミリーの使用可能なスタイルが表示されます。[サイズ]ではテキストオブジェクトのポイントサイズを変更でき、その下のボタンでは固定サイズのテキストフレーム内のテキストの位置合わせを操作できます(下記の**高度なタイポグラフィ**参照)。

## テキストフレーム

行の長さが一定で、その長さを超えると自動的に改行されるテキストのブロックを作成した場合は、DTPプログラムと同様のテキストフレームが作成できます。

標準設定でテキストスタイルが固定幅のテキストフレームを用意するかどうかは [テキストスタイルの編集] で指定でき、いくつかのテキストスタイル ([ブロック歌詞] など) は、この設定になっています。

その他のテキストスタイルでは、テキストオブジェクトを作成するときに固定サイズのテキストフレームを作成します。

- まず **Esc** キーを押して、何も選択されていない状態にします。
- [テキスト] ▶ [スタイル] ▶ [スタイル] から目的のテキストスタイルを選択するか、またはキーボードショートカットをタイプします。
- マウスのポインターが青色に変わり、オブジェクトがロードされたことを示します。次にテキストフレームを配置したい場所をクリック&ドラッグしてマウスのボタンを放すと、カーソルが元の点滅カーソルに戻ります。

以下の通り、固定サイズのテキストフレームを既存のテキストオブジェクトに対して使用することもできます。

- テキストフレームを使いたいテキストオブジェクトを選択します。そのテキストオブジェクトがよほど細くない限り (強弱記号や運指など)、各隅と両側の中間にハンドルを持つ破線のフレームがテキストオブジェクトの周りに表示されます。

**Dashed frames are not fixed in width.**

- ハンドルを選択してドラッグすると、テキストフレームの大きさが変わられます。別の方法としては、テキストオブジェクトが選択された状態で **Alt** または **⌘** を押さえ、矢印キーを使ってハンドルの1つを選択します。次に矢印キーを使って (より大きな段階では **Ctrl** または **⌘** を押さえ) テキストフレームの大きさを変えます。

また [インスペクター] を呼び出して [テキスト] パネルの [テキストフレーム] チェックボックスをオンにすることもできます。これは、標準設定ではハンドルを表示するには小さすぎるテキストオブジェクトに対して固定サイズのテキストフレームを作成する唯一の方法です。

- テキストオブジェクトに固定サイズのフレームを適用すると、フレームが実線で表示されます。

A screenshot of a text frame in Sibelius 7. The frame has a solid black border and contains the text "Solid frames have a fixed width." in a blue serif font. The text is centered within the frame.

テキストフレームが固定幅を持った後は、テキストの追加や削除、書体やポイントサイズの変更など、その内容を変更したときもテキストフレームの大きさは変わりません。その結果としてテキストがテキストフレームからあふれる場合があります。この場合は、注意を促すためにテキストフレームの右下隅に赤色の十字が表示されます。

A screenshot of a text frame in Sibelius 7. The frame has a dashed black border and contains the text "Solid frames have a" in a blue serif font. A small red cross icon is visible in the bottom right corner of the frame, indicating that the text is overflowing.

非固定幅のフレームを使用するようテキストオブジェクトを元に戻すには、テキストオブジェクトを選択し、**[外観] ▶ [デザインと配置] ▶ [位置をリセット]** を選択します。これはテキストオブジェクトの位置も標準設定の位置へリセットします。また、インスペクターを呼び出して **[テキスト]** パネルの **[テキストフレーム]** チェックボックスをオフにすると、テキストフレームの位置は変わりません。

テキストフレームについて詳しくは、『リファレンスガイド』の **5.5 タイポグラフィー** をご参照ください。

### 高度なタイポグラフィ

テキストフレームに加えて、Sibelius 7は以下の高度な高度なタイポグラフィ機能に対応しました。

- 行端ぞろえ：テキストオブジェクト自体とは別に、テキストオブジェクト内のテキストに対して異なる行端ぞろえを指定できます（テキストのブロックは右揃え、ブロック内のテキストは中央揃えなど）。
- 行間（レディング）：次の行との距離。
- 段落後の空き：長いテキストを読みやすくするため、各段落の後に間隔を空けます。
- インデント：段落の最初の行に対するインデントと、次の行のインデントを指定します。
- トラッキング（文字の間隔）：個々の文字間の距離。
- 文字の拡大縮小：比例を保たずに文字の大きさを拡大縮小します（比例して文字を拡大縮小したい場合は **[テキスト] ▶ [フォーマット]** の **[サイズ]** コントロールを使って単にポイントサイズを変更してください）。
- 上付きと下付き：通常より小さな文字で、基線の少し下、または中線の少し上に配置されます。
- 回転：テキストオブジェクトを任意の角度へ回転します。

段落のインデントと段落後の空きの設定を除き、これらのすべてはインスペクターの **[テキスト]** パネルを使って個々のテキストオブジェクトに対して設定できます。また **[テキストスタイルの編集]** ダイアログでは、1つのテキストスタイル全体に適用することもできます。

これらの機能について詳しくは、『リファレンスガイド』の **5.5 タイポグラフィー** と **5.6 テキストスタイルの編集** をご参照ください。

## 文字スタイル

各タイプのテキストはそれぞれ異なるフォント、フォーマット（太字、斜体、下線（ほとんど使用されません）、均等揃え（左揃え、中央揃え、右揃え）、および配置（テキストを1つの譜表またはすべての譜表の上または下、あるいはページが一番上または一番下に表記するかなど）を使用できます。これらの設定を総称して「テキストスタイル」と呼びます。

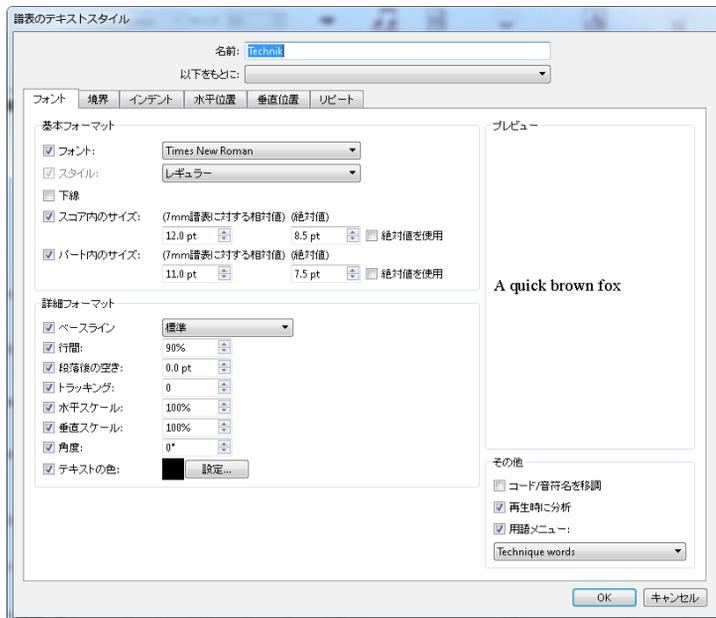
テキストスタイルに加えて、Sibeliusには文字スタイルもあります。こちらは、テキストオブジェクトの一部に対して特定のフォント、サイズ、形式を適用するのに使用されます。もっとも一般的に使用される文字スタイルは**音楽テキスト**と呼ばれます。これは、音符などの音楽記号を、メトロノーム記号のように音楽記号を必要とするテキストオブジェクトに加える場合や、強弱記号などで使用される太字や斜体などを表記する場合に使用されます。文字スタイルは、テキスト内の1つの語だけを斜体や太字にするなど、何かを強調したい場合にも便利です。文字スタイルは、語を選択して斜体または太字にするだけと操作が簡単のため、もし後で気が変わり別の方法で強調したいと思った場合にも、文字スタイルを編集するだけで、その文字スタイルを使用するすべてのテキストオブジェクトに変更が自動で適用されます。

文字スタイルについて詳しくは、『リファレンスガイド』の  **5.6 テキストスタイルの編集** をご参照ください。

## 階層テキストスタイル

Sibeliusは新規スコアに対して階層テキストスタイルを採用しました。すなわち、1つのテキストスタイルに属する設定の一部が別のテキストスタイルで継承できます。これは非常にパワフルな編集を可能にします。たとえば、**[単純テキスト]** テキストスタイルが使用しているフォントを変更すると、その他のすべてのテキストスタイルが使用しているフォントが更新されます。

この新しいタイポグラフィ機能のすべてと階層テキストスタイルに対応するため、**[テキストスタイルの編集]** ダイアログが改良されました。



詳しくは、『リファレンスガイド』の  **5.6 テキストスタイルの編集** をご参照ください。

## 新しい標準設定のテキストフォント

Sibelius 7には、Monotype Imaging Ltd. からライセンスを受けた Plantin フォントファミリーの4種類の太さの文字（標準、斜体、太字、太字斜体）が付属しています。Plantin は、16世紀のイタリアの書体デザイナー Robert Granjon による書体のセットをもとに、1913年に Frank Hinman Pierpont がデザインしたものです。Plantin は、通常のエックスハイトより大きい点において Times New Roman のデザインに影響を与え、小さなポイントサイズでの可読性を向上させています。

Plantin は楽譜出版で使用される古典的なフォントとして選ばれました。たとえば Oxford University Press は楽譜出版用として今でもこのテキストフォントファミリーを使用しています。Plantin は、エレガントで古典的な書体として Opus と Helsinki を補完します。表示サイズ（タイトル用など）に適し、より小さいサイズ（歌詞用など）では太字と通常の太さのコントラストが強調されます。

Plantin は、標準設定の [空白] 譜面用紙など、多くの付属の譜面用紙において標準設定のテキストフォントファミリーになっています。

## フォントの代替

Sibelius のフォント代替機能がか改良されました。ご使用のシステムにはないフォントを使用しているテキストスタイルまたはテキストオブジェクトを持つスコアを開いた場合は、フォントを選択するための [見つからないフォント] ダイアログが表示されます。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **5.17 フォントの代替** をご参照ください。

## その他のテキストの改良点

- 角度の付いたテキストに対するクリックエリアが正しくなりました。回転する前の場所ではなく、角度の付いたテキストのどの部分でもクリックして選択できます。
- Mac で数字付き低音を入力するとき、タイプしている内容が常に表示されるようになりました。
- キューサイズのテキストが、編集中でも正しいサイズで表示されるようになりました。

# グラフィックのインポートとエクスポート

Sibelius 7では、すべての主要なフォーマットのグラフィックのインポートとエクスポートが簡単に行えます。すべての主要なフォーマット（PNG、BMP、GIF、JPG、ベクターフォーマットSVGなど）のグラフィックをインポートして様々なパワフルなツールで操作できるようになりました。

またグラフィックのエクスポート機能は、シングルクリックでスコア全体（およびすべてのダイナミックパート）を出版クオリティーのPDFとしてエクスポートする機能、改良されたEPSエクスポート機能、新しいSVGエクスポート機能、その他の多くの機能と共に改良されました。

## グラフィックをインポートする

グラフィックは、ファイルをスコアにドラッグ&ドロップするだけでインポートできます。グラフィックをWindows ExplorerまたはFinderで選択し、スコアにドラッグしてください。または【記譜】▶【グラフィック】▶【グラフィック】を選択し、ダイアログからグラフィックを選択してください。

スコアにグラフィックをインポートしたら、パワフルな新しいグラフィックフレームを使ってグラフィックを拡大縮小（比例して、または比例せず）、切り取り、回転できます。色、明るさ、不透明度も調整できます。アルファチャンネル（透明）を持つグラフィックは、透明性を維持したまま正しく描かれます。

グラフィックは記号としても使えます。お好きなグラフィックを【シンボルの編集】ダイアログへインポートして、音部記号、符頭、アーティキュレーション、その他の記号として使えます。

出版用では、インポートしたグラフィックを外部ファイルへリンクできます。リンクしたグラフィックは、外部ファイルが変更されると自動的に更新されます。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **4.18 グラフィックをインポートする** をご参照ください。

## PDFファイルをエクスポートする

PDFをエクスポートするには、【ファイル】▶【エクスポート】▶【PDF】を選択します。オプションのリストが表示されます。

- **スコアのみをエクスポート**：フルスコアのみエクスポートします。
- **スコアとパートをエクスポート（1つのファイルとして）**：フルスコアと各パートの単一のコピーを単一のPDFファイルにエクスポートします。
- **パートのみエクスポート（個別のファイルとして）**：各パートの単一のコピーを、各パートごとに別のPDFファイルとしてエクスポートします。
- **パートのみエクスポート（1つのファイルとして）**：各パートの単一のコピーを単一のPDFファイルにエクスポートします。
- **1つのパートのみエクスポート**：オプションのリストの下のメニューから選択したパートの単一のコピーをエクスポートします。

オプションを選択したら、大きな【エクスポート】ボタンをクリックします。ファイル名（別のファイルとしてパートをエクスポートする場合はPDFファイルを保存するフォルダ）を選択するよう求められ、PDFファイルが保存されます。

（1つのパートまたは全部のパートではなく、選択した複数のパートをPDFへエクスポートする必要がある場合は、【パート】▶【抽出】▶【抽出】で行えます。）

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **1.17 PDFファイルのエクスポート** をご参照ください。

### その他のグラフィックをエクスポートする

改良された【ファイル】▶【エクスポート】▶【グラフィック】ページには、改良されたEPSエクスポート機能、新しいPDFエクスポート機能、新しいSVGエクスポート機能など、選択したパッセージ、ページ、またはスコアを全体を様々なフォーマットでエクスポートするオプションがあります。

詳しくは、『リファレンスガイド』の  **1.12 グラフィックのエクスポート**をご参照ください。

### その他の改良点

- エクスポートしたビットマップグラフィック（BMP、TIFF、PNGフォーマット）の実際のピクセルサイズが【ファイル】▶【エクスポート】▶【グラフィック】に表示され、ウェブ用のグラフィックを準備するときなどに役立ちます。
- エクスポートしたEPSグラフィックのTIFFプレビューが改良されました。標準設定では、プレビューは以前のバージョンより高い解像度で、8ビットカラーを使って保存されます。これによって、EPSのコンテンツを直接解析してラスターライズしないアプリケーション（Quark Xpressなど）で開いたときのEPSファイルの見た目が向上します。白黒（1ビットカラー）のTIFFプレビューを必要とする場合は、【ファイル】▶【エクスポート】▶【グラフィック】の【メートル】チェックボックスをオンにしてください。
- 【最小の表示範囲選択を使用】オプションをオンにして5.6mm以下の譜表サイズでスコアからエクスポートしたTIFFファイルとEPSファイルのグラフィックが、場合によっては誤った大きさでエクスポートされる問題を修正しました。
- エクスポートしたEPSファイルのフォント埋め込みが大幅に改良されました。様々なスクリプトのOpenType、TrueType、PostScript Type 1フォントが正しく埋め込まれるようになりました。EPSファイルにフォントを埋め込むかどうかを選択するオプションはなくなりました。Sibeliusは常にすべてのフォントを埋め込みます。
- 【ファイル】▶【エクスポート】▶【グラフィック】で特定のプログラムを選択する必要がなくなりました。単に対応グラフィックフォーマットだけが表示されます。

# その他の変更と改良

以下は Sibelius 7 のその他の改良点です。詳しくは、『リファレンスガイド』の関連トピックをご参照ください。

## 1.10 印刷

【ファイル】 ▶ 【印刷】 が改良され、印刷される状態を正確に示す印刷プレビューと、手動両面印刷などの新しい機能が追加されました。

## 1.18 譜面用紙をエクスポート

- 【ファイル】 ▶ 【エクスポート】 ▶ 【譜面用紙】 が改良されました。譜面用紙が保存される名前とカテゴリが選択できます。以前のバージョンとは異なり、譜面用紙をエクスポートする前に既存のスコアのコピーをテンプレートとして保存して音符やテキストを削除する必要はありません。これらはすべて Sibelius が行ってくれます。
- インポートしたグラフィックは、標準設定では反発しなくなりました（マグネティックレイアウトに対して）。
- バンジョーの音域が改良されました。
- ターンと逆ターンの記号の名前が修正されました。

## 1.22 プラグインを使った作業

最大 1,000 の Manuscript プラグインが Sibelius にロードできます。これまでのプラグインの最大数は 300 でした。

## 1.23 環境設定

- Sibelius には以前のようなメニューがありませんので、【環境設定】の【メニューとショートカット】 ページの名前は【キーボードショートカット】に変わりました。
- 新しい【ステップタイム】 ページと【フレキシタイム】 ページが【環境設定】へ追加され、【音符の入力】 ページのいくつかのオプションがこの新しいページへ移動しました。
- 【シャドー音符を表示】 オプションと【スナップ位置】 グループが【環境設定】の【マウス】 ページから【音符の入力】 ページへ移動し、これらのオプションがキーボード入力とマウス入力へ適用できることを反映しました。

## 2.1 選択とパッセージ

- 選択枠は、不透明の枠（パッセージの選択では紺青色の単線枠、譜表の選択では紫色の二重枠）ではなく、半透明の色付きのボックス（パッセージの選択では水色、譜表の選択では紫色）で表示されるようになりました。これによって、以前は不透明の選択枠によって隠された、譜表の上下の加線上の音符の音高を決定するのが簡単になりました。
- 【環境設定】の【マウス】 ページの【マウスでのコピーを有効】 オプションをオンにすると、「コードクリック」（左右のマウスボタンの両方をクリックする）によるコピーが Mac と Windows で機能します。

## 2.12 バッチ処理プラグイン

新しい【ホーム】 ▶ 【プラグイン】 ▶ 【バッチ処理】 ▶ 【各楽器を MIDI としてエクスポート】 プラグイン。

## 2.13 その他プラグイン

新しい【リハーサル録音】、【選択をオーディオとしてエクスポート】、【選択をスコアとしてエクスポート】、【小節のサイズを変更】 プラグイン。

## 3.14 フレキシタイム

【パフォーマンスの再表記】 が大幅に改良されました。最大 2 声部が使用でき、連音符、装飾音符、アルペジオが検出できます。

## 3.21 音符と休符プラグイン

新しい【音符の入力】 ▶ 【プラグイン】 ▶ 【音符と休符】 ▶ 【音価を分割】 プラグイン。

## 4.9 ラインの編集

ラインの最初のテキストを編集するために【テキスト】ラジオボタンをクリックする必要がなくなりました。【テキスト】ラジオボタンの右のボタンをクリックできます。

### 4.19 括弧と大括弧

括弧と大括弧は、選択された譜表を考慮して作成されるようになりました。

- 何も選択されていない場合は、括弧/副括弧をクリックした譜表からその下の譜表にわたって作成されます。大譜表の一番下の譜表をクリックした場合は、クリックした譜表からその上の譜表にわたって括弧/副括弧が作成されます。
- 複数の連続した譜表が選択されている場合は、これらの譜表にわたって括弧/副括弧が作成されます。
- 複数の連続していない譜表が選択されている場合は、選択範囲の一番上の譜表から一番下の譜表にわたって括弧/副括弧が作成されます。

### 5.15 テキスト プラグイン

- 新しい【テキスト】▶【プラグイン】▶【音符に連指を追加】プラグイン。
- 新しい【ナッシュビルコード番号】プラグインと、最新の【コード記号の分数化】(複数の選択とパッセージを処理する)。
- 【Reprise Scriptに括弧を追加】が誤ってテンポテキストに作用することがなくなり、大譜表テキストオブジェクトのみの複数の選択項目に対して実行したときも正しく機能するようになりました。
- 【音符名の追加】は日本語の音符名を追加できるようになりました。

### 8.2 ハウススタイル

- 2小節と4小節のリピート記号がInkpen2ハウススタイルで正しく配置されるようになりました。
- マルチレストの数字の位置がHelsinkiハウススタイルで向上しました。

### 8.6 音楽フォント

- Sibeliusの音楽フォントファミリー (Opus, Inkpen2, Helsinki, Reprise) はWindowsとMacの両方においてOpenTypeフォーマットでのみ提供されます。これらのフォントと以前のバージョンのSibeliusのフォントを共存させるため、フォントの名前に「Std」が加えられました (この接尾辞はOpenType固有の機能を持たないOpenTypeフォントを示すために用いています)。すなわちOpusはOpus Stdに、Inkpen2 ScriptはInkpen2 Script Stdに、以下同様となっています。
- PostScript Type 1バージョンのSibeliusの音楽フォントファミリーはSibeliusには付属していません (Windowsのみ)。
- 拍子記号 (巨大) と拍子記号 (大) のテキストスタイルに適した新しいOpus Big Time StdフォントとReprise Big Time Stdフォント。これらは背が高く、幅の狭いフォントで、水平方向のスペースを多くとらずに、複数の譜表にわたる拍子記号が作成できます。
- Inkpen2 Specialの括弧開き文字用境界ボックスが改良されました。
- OpusとHelsinkiの上向きと下向きのスタッカーティシモ記号の外観が改良されました。
- Opusの+文字用境界ボックスが改良され、複合拍子記号の外観が改良されました。
- Inkpen2のC (4/4) とカットC (2/2) の拍子記号が大きくなり、外観が改良されました。
- Opus Textの臨時記号が大きくなり、基線の位置が調整され、外観が改良されました。
- Opus Figured Bassの臨時記号が大きくなり、外観が改良されました。

### 10.5 校正プラグイン

【オブジェクトに解析】が、特別な小節線の存在と場所をレポートするようになりました。

## インストール

- Windows では、標準設定では Sibelius 7 は **C:\Program Files\Avid\Sibelius 7** の中にインストールされます。64 ビットの Windows システム上では、Sibelius の 64 ビットバージョンと 32 ビットバージョンの両方がインストールされます。32 ビットバージョンは **C:\Program Files (x86)\Avid\Sibelius 7** に、64 ビットバージョンは **C:\Program Files\Avid\Sibelius 7** にインストールされます。
- Mac OS X では、Sibelius 7 は 32 ビットと 64 ビットの両方の実行ファイルを含むユニバーサルバイナリとして提供され、ご使用のコンピューターのプロセッサが 64 ビットのアーキテクチャーに対応している場合は 64 ビットのアプリケーションとして起動します。Sibelius を強制的に 32 ビットのアプリケーションとして起動するには、Finder で Sibelius 7 のパッケージを選択し、右クリックして **【情報を見る】** を選択し、**【一般情報】** の下の **【32 ビットモードで開く】** をオンにします。
- Sibelius 7 のユーザーレベルのアプリケーションデータは、**C:\Users\ (ユーザー名) \AppData\Roaming\Avid\Sibelius 7** (Windows) と **/ ユーザ/(ユーザー名)/ライブラリ/Application Support/Avid/Sibelius 7** (Mac) にあります。Windows では、インストール時に新しい **Sibelius 7 (User Data)** ショートカットが **【スタート】** メニューへ追加されます。これをクリックすると、プラグインや譜面用紙などのユーザー定義のコンポーネント用の空のフォルダが自動的作成された、ユーザーレベルのアプリケーションデータフォルダが開きます。
- ユーザーの環境設定は、**com.avid.sibelius7.plist** というファイルとして、Windows では **HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Avid\Sibelius 7** に、Mac では **/ ユーザ/(ユーザー名)/ライブラリ/Preferences s** に保存されます。(TT29532)
- Sibelius のすべてのデータファイル (譜面用紙、サウンドセット、プラグイン、文書など) は、**【Program Files】** の **【Sibelius 7】** フォルダの中ではなく、**C:\ProgramData\Avid\Sibelius 7** にインストールされます。これによって 32 ビットと 64 ビットの実行ファイルは、必要なデータを正しくロードできます (Windows のみ)。
- Sibelius の自動保存機能が使用する **【AutoSave】** フォルダは、以前のバージョンの Sibelius の **【AutoSave】** フォルダとの干渉を避けるため、**C:\Users\ (ユーザー名) \AppData\Roaming\Avid\Sibelius 7** (Windows) と **/ ユーザ/(ユーザー名)/ライブラリ/Application Support/ Avid/Sibelius 7** (Mac) にあります。

# キーボードショートカット

Sibelius 7の新しいショートカットと既存のショートカットの変更は以下の通りです。

## 新しいキーボードショートカット

Sibelius 7の新しいキーボードショートカットを以下の表に示します。

機能	Windows ショートカット	Mac ショートカット
リボン最小化/拡張	<b>Ctrl + F1</b>	<b>⌘F1</b>
次のドキュメントタブを選択	<b>Ctrl + Tab</b>	<b>Control - Tab</b>
前のドキュメントタブを選択	<b>Ctrl + Shift + Tab</b>	<b>Shift-Control-Tab</b>
現在のタブを閉じる	<b>Ctrl + W</b>	<b>⌘W</b>
現在のウィンドウを閉じる	<b>Ctrl + Shift + W</b>	<b>⇧⌘W</b>
選択した音符/和音/パッセージを半音階上に移動	<b>Ctrl + Page Up</b>	<b>⌘⇧ または ^↑</b>
選択した音符/和音/パッセージを半音階下に移動	<b>Ctrl + Page Down</b>	<b>⌘⇩ または ^↓</b>
【音価の前に音高】を無効にする	<b>Shift + Alt + L</b>	<b>⇧⇧L</b>
貼り付けラインを終了	<b>Shift-L</b>	<b>⇧L</b>
貼り付けスラーを終了	<b>Shift-S</b>	<b>⇧S</b>
選択した音符を装飾音符に変える	<b>;</b>	<b>;</b>
貼り付け連音符開始/停止	<b>Shift + Alt + K</b>	<b>⇧⇧K</b>
インスペクターを呼び出す	<b>Ctrl + Shift + I</b>	<b>⇧⌘I</b>

## 既存のショートカットの変更

以下の Sibelius 6 のキーボードショートカットは変更されました。

機能	Sibelius 6	Sibelius 7
現在のウィンドウを閉じる	<b>Ctrl + W</b> ⌘W	<b>Ctrl + Shift + W</b> ⇧⌘W
ライブレイベックの変換	<b>Ctrl + Shift + Alt + L</b> ⇧⇧⌘L	なし
ライブレイベックオン/オフ	<b>Shift-L</b> ⇧L	<b>Ctrl + Shift + Alt + L</b> ⇧⇧⇧⌘L
下向きスラー	<b>Shift-S</b> ⇧S	なし
次のダイナミックパートを表示	<b>Ctrl + Alt + Tab</b> (Windowsのみ)	<b>Ctrl + #</b>
前のダイナミックパートを表示	<b>Ctrl + Shift + Alt + Tab</b> (Windowsのみ)	<b>Ctrl + Shift + #</b>
非表示オブジェクトの表示	<b>Ctrl + Alt + H</b> ⇧⇧⌘H	<b>Shift + Alt + H</b> ⇧⇧H